

被災農家を見つめ続けた水害からの早期復旧支援

県西農林事務所結城地域農業改良普及センター

平成 27 年 9 月の関東・東北豪雨により、常総市の農業生産現場は水稲を中心に野菜、果樹、花き等の農作物で約 14 億円、農業用施設等で約 29 億円の甚大な被害を受けました。普及センターは、水害発生直後から生産者が再び早期に生産に取り組めるよう災害状況調査、水害により刈取できなかった稲(残稲)の処理方法や各種栽培情報の提供を行いました。また、被害ほ場の土壌診断、水稲の次作に向けた栽培講習会を開催し早期復旧を支援しました。

堤防決壊で常総市に大水害発生

関東・東北豪雨による鬼怒川堤防の越水、決壊により、常総市の東部地域は広範囲に渡って浸水し多くの農作物が被害を受けました。堤防決壊地区では水稲、大豆等が流亡しただけでなく、流されてきた家屋・車両等がほ場に散在したほか、土砂の流入や深くえぐられるなど生産基盤に大きな被害が発生しました。また、地域によっては 2m を越える浸水により、多くの農業機械や施設にも被害が及びました。



水害のため刈取できずに圃場に残された稲



鬼怒川の堤防決壊により壊滅的な被害を受けた大豆圃場

被害ほ場の次作への対応

冠水や土の流入、残稲のすき込みほ場について土壌診断を実施しました(計 15 地点)。その結果、問題となるような値は認められなかったものの、すき込んだ残稲から窒素成分等が発現する可能性があるため、基肥一発肥料ではなく肥料の量を調整できる基肥+追肥体系を指導しました。今後、被害ほ場における麦・水稲の生育調査等とともに、復旧工事実施ほ場に作付される大豆の栽培管理指導等を行っていきます。

水稲栽培講習会の開催

被害を受けた水稲生産者から次作への不安の声が多く聞かれたことから、農業総合センター(専技室)と連携し「関東・東北豪雨後の平成 28 年産水稲栽培講習会」を開催しました。土壌診断の結果、残稲をすき込んだほ場における施肥法・施肥量やガス害回避対策など栽培上の注意点や、今後普及センターで実施する被害ほ場の生育調査予定等について丁寧に説明しました。その結果、生産者・関係機関へ正確な情報を提供でき、生産者の不安払拭の一助となりました。今後も、関係機関と連携を図りながら、地域の復興を見守って行きます。



関東・東北豪雨後の平成 28 年産水稲栽培講習会